

# 福岡市方言における形容詞型活用の諸相について —10代・20代でのヒマ（暇）イ・スルカローの使用実態—

（『言語の研究』3号）  
2017年7月

富田あかね

## 1. はじめに

福岡市方言<sup>(1)</sup>において共通語の形容詞、形容動詞のほとんどは「アオカ」「ゲンキカ」「ジョーズカ」のような断定・連体非過去形をとる（平塚2014）。これらの断定・連体非過去形「一カ」の形を指し、本稿では「カ語尾」と呼ぶ。当該方言を含むカ語尾使用地域では、このカ語尾は形容詞と形容動詞だけでなく、助動詞や名詞にまで適用できる使用範囲の広さを有している（都築1961）。しかし、福岡市出身の筆者の経験としてはカ語尾の「ヨカ（良い）」「アカカ（赤い）」「ゲンキカ」等を聞くことは少なく、「ヨイ」「アカイ」「ヒマイ」などの「イ語尾」が台頭してきており、カ語尾は衰退していると感じている。ただし、「ヨカロー（良いだろう）」「ヘタカッタ（下手だった）」といった形容詞型活用表現は、形容詞だけでなく形容動詞でも聞くことが多い。また、その、推量「一カロー」については「スルカロー（するだろう）」など、動詞でも聞かれる。つまり、福岡市方言ではカ語尾の体系の一部分（終止形・連体形）は衰退して新たにイ語尾をとり、「カ語尾」を有する形容詞型活用体系の一部は保持しながら、新しい体系を構築しつつあるようである。そして、それは、形容詞・形容動詞などの共通語化ではなく、共通語の形容詞活用語尾と同形の「一イ」を体系に取り込みながらも福岡市方言独自の文法体系を保持しているものであり、なおかつ、その体系の一部分にいたっては拡大傾向にあるように思われる。そこで、本研究は、10代・20代の年代層をインフォーマントとして現時点での福岡市方言のカ語尾・イ語尾の使用実態を調査することを目的とする。

## 2. 先行研究とそれについての検討

### 2-1. 福岡市方言について

まず、本研究対象である福岡市方言の方言区画上の位置づけを確認しておく。福岡県の方言区画は東側の豊日方言と西側の肥筑方言に分かれており、肥筑方言はさらに北部の筑前方言、南部の筑後方言に分けられる。福岡市はそのうちの筑前方言域に位置する。人口は平成28年12月現在で約155万人を有し、流入も多い。平塚（2014）によると、東京、神奈



図1 福岡県方言区画図

川、大阪などの大都市から流入者を受け入れる一方、九州一円またその近辺からの流入も多く、激しい方言接触が起きているという。

## 2-2. 福岡市方言における形容詞・形容動詞

### 2-2-1. 「カ語尾」体系

ここでは平塚（2014）に拠って福岡市方言におけるカ語尾と形容詞型活用の表現を見ていきたい。まず、形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用について、平塚（2014）に筆者が語例を加筆したものが【表1】である。いわゆる形容動詞の語幹に相当するものが「形容名詞」（小西2014）であり、その形容名詞にダが下接したものが「形容名詞述語」（小西2014）である。

【表1 形容詞・形容名詞述語・名詞述語活用表】

		赤い	下手(だ)		静か(だ)		学生[ガクセー](だ)
			形容詞型	名詞述語型	形容詞型	名詞述語型	
終止類	断定非過去	アカカ ○アカイ	ヘタカ ○ヘタイ	ヘタ(ヤ)	シズカカ ○シズカイ	シズカ(ヤ)	学生(ヤ)
	断定過去	アカカッタ	ヘタカッタ	ヘタヤッタ	△シズカカッタ	シズカヤッタ	学生ヤッタ
	推量	アカカロー	ヘタカロー	ヘタヤロー	△シズカカロー	シズカヤロー	学生ヤロー
接続類	連体非過去	アカカ ○アカイ	ヘタカ ○ヘタイ	ヘタナ	シズカカ ○シズカイ	シズカナ	《学生ノ》
	連体過去	アカカッタ	ヘタカッタ	ヘタナ	△シズカカッタ	シズカヤッタ	学生ヤッタ
	中止	アコーシテ ○アカクテ	ヘタクテ	ヘタヤッタ	△シズカクテ	シズカデ	学生デ
	仮定	アカカレバ	△ヘタカレバ	ヘタデ	△シズカカレバ	シズカナラ	学生ナラ
		アカケレバ アカカッタ	ヘタケレバ ヘタカッタ	ヘタナラ ヘタヤッタ	△シズカケレバ △シズカカッタ	シズカヤッタラ	学生ヤッタラ
派生類	否定	アコーナカ ○アカクナイ	ヘタクナカ ○ヘタクナイ	ヘタジャナカ ヘタヤナカ ○ヘタヤナイ	△シズカクナカ ○シズカクナイ	シズカジャナカ シズカヤナカ ○シズカヤナイ	学生ジャナカ 学生ヤナカ ○学生ヤナイ
	なる	アコーナル ○アカクナル	ヘタクナル	ヘタニナル	△シズカクナル	シズカニナル	学生ニナル

(3)  
△稀な形 ○筆者による追加

福岡市方言では、形容名詞述語の活用のしかたには形容詞型と名詞述語型の2通りがあり、併用されている。<sup>(4)</sup>形容名詞述語に所属する語の体系は一樣ではなく、【表1】で2つに分けてあるように、形容詞的な活用を多くとる語（「下手」等）と、一部形容詞的な活用をとる語（「静か」等）とがある。本稿の課題であるカ語尾の形をとるのは、形容詞と形容名詞述語の形容詞型活用における〈断定非過去形・連体非過去形〉（「アカカ」および「ヘタカ」「シズカカ」）である。都築（1961）によると、助動詞の「イ」語末のものや名詞においても「一シタカ・一ラシカ」・「<sup>べん</sup>紅カ・<sup>きな</sup>黄カ・駄目シカ」とカ語尾化するようである。しかし、これらのカ語尾は今では高齢層でも失われつつあり、形容詞「アカイ」、形容名詞述語「ヘタイ」「シズカイ」のようにイ語尾をとる話者が増えている（平塚2014）。本稿では、イ語尾をとる形容名詞述語を「イ語尾形容動詞」と呼ぶことと

する。

なお、杉本（1993）によると、カ語尾をとらない形容名詞として外来語・量語・語幹が「～的」で終わるものがあり、カ語尾をとりにくいものとして語幹語末が「一カ」または「一イ」のものがあるという<sup>(5)</sup>。また、イ語尾形容動詞は話者によっても、また、同一話者であっても、語彙によりイ語尾をとるか否かの揺れが大きい（陣内1996）。単語（単語相当）ごとに、カ語尾・イ語尾のいずれをとる（とりやすい）か、どのような活用形体系を有するか、その様相には差があり、複雑である。

## 2-2-2. 「カ語尾」の衰退

住田（1985）では、「カ語尾を有するカリ活用」と「カ語尾を有しないカリ活用」の当時の使用状況を、調査結果によって示している。佐賀県鹿島市、福岡県浮羽市などの地域では「未然形、未来形、連用形、終止形・連体形、已然形（ママ）の各活用形を具備して」いる一方、北九州市若松区では終止形・連体形において「カ語尾を有しないカリ活用」が行われているという。北九州市若松区では「ごく稀に『ヨカ』（良い）」だけが用いられていたことが岡野（1960）で報告されている。このことから、福岡市方言のカ語尾は、終止形・連体形のカ語尾から失われていったという予測ができる。

これに対し、終止形・連体形以外の活用形については、1979～1982年に調査が行われた『方言文法全国地図』（国立国語研究所1993, 1999）に、形容詞「高い」、形容動詞「静かだ」についていくつかの活用形の調査がある。形容詞について、「高い（物）」では佐賀との県境と筑後にカ語尾型の<takaka><takka><sup>(6)</sup>が見られるものの、福岡県全体としては共通語形と同形の<takai>やその音便形<takee>に移行しているようである。一方、「高いだろう」では福岡県全体で<takakaroo><takkaroo>のような形容詞型活用がかなり優勢である。形容動詞「静かだ」では断定形、連体形、推量形いずれにおいても名詞述語的な使用がされていたようである。つまり、カ語尾活用語の活用体系のうち、終止形・連体形のカ語尾は失われたものの、他の活用形ではそれが保持されていたと言える。

## 2-2-3. イ語尾形容動詞

福岡市若年層の形容詞と形容動詞の活用について、陣内（1982）は、「イ型」「イ～ヤ混合型」<sup>(7)</sup>「ヤ型」と3つに分類している。【表2】は陣内（1982）をもとに作成したものである。

イ型とヤ型はそれぞれ共通語の形容詞と形容動詞（イ～ヤ混合型を除く）に相当するものであり、イ～ヤ混合型は「共通語形容動詞に相当するもののうち、下手、上手、気の毒、窮屈、横着、

【表2 若年層形容詞活用】

	未然	連用(1)	連用(2)	終止	連体
イ型(善)	ヨカロ	ヨクナッタ	ヨカッタ	イー (ヨカ)	
イ～ヤ混合型(下手)	ヘタカロ ヘタヤロ	ヘタクナッタ	ヘタカッタ ヘタヤッタ	ヘタヤ	ヘタイ (ヘタカ)
ヤ型(派手)	ハデヤロ	ハデニナッタ	ハデヤッタ	ハデヤ	ハデナ

奇麗、変な、ケチなど。」と述べている。

福岡市老年層においては、共通語形容詞相当の「カ型(例:ヨカ・赤カ)」と形容動詞相当の「カ～ジャ混合型(例:派手カ・派手ジャ)」の2分類にされている。老年層の「カ～ジャ混合型」と若年層の「イ～ヤ混合型」の相違点で注目すべきは、若年層の連体形にイ語尾「ヘタイ」が出現していることである。なお、陣内(1983)では福岡市内の中学校でのアンケート調査の結果、「ヘタヤネ」「ヘタイネ」の両形が若年層の間で定着していることを示している。

陣内(1982)は、「ヘタイ」のような「イ～ヤ混合型」出現の要因を、従来の方言体系と共通語の規範体系との接触にあるとして、「イ～ヤ混合型は、カ型をイ型<sup>(8)</sup>に取り換えることにより出現したものであり、またこの方言の形容詞体系は規範体系のダ形に倣って、純粋のヤ型が一般化したことにより3つの型に分けられることになったと考えられる。」と述べている。つまり、形容詞を共通語化するときと同様「一カ > 一イ」という「取り換え」を形容動詞まで適用させたということである。

なお、福岡市方言では、形容動詞「変だ」については、【表2】中の「下手だ」「派手だ」とはやや異なる「イ～ヤ混合型」の形をとる。すなわち、「語幹+カ」ではなく、「変<sup>(9)</sup>ナ」「変<sup>(9)</sup>ナイ」のようにナを介在する。この、福岡市方言の形容動詞「変だ」の終止形・連体形について、吉岡(1998)は福岡市の40代・50代で「ヘンナイ」「ヘンナカ」の使用がともに42%であり、20代の社会人では「ヘンナカ」が16%、中・高校生、大学生の「ヘンナイ」の使用は7～8割にのぼるとしている。つまり、形容動詞「変だ」に特化してみても、「ヘンナカ」から「ヘンナイ」への推移が見て取れるのである。

## 2-3. 福岡市方言における動詞否定形の活用

### 2-3-1. 「ンカッタ」の成立と福岡市方言への流入

動詞否定形の過去形「一ンカッタ」は現在西日本共通語とでもいえるような広がりを持っていることが指摘されている。ただし、その成立過程に関しては諸説あり、地域によって異なるものと思われる。

上村(1983)の九州方言における打消表現の項目によると、「過去の打消には『行カザッタ<sup>(10)</sup>』の転訛した、行カンジャッタが最も優勢で、行カンヤッタ(筑前ほか)、行カ(ン)ダッタ(肥後)の訛形もある。原形にンが入るようになったのは、打消の感じが薄くなったからである。」とある。

九州方言学会（1969）の「調査項目39打消の過去『行かなかった』」の福岡県における使用を見ても、老年層（1887～1906年生）には「行かザッタ」<sup>(11)</sup>「行かジャ（ヂャ）ッタ」「行かヤッタ」の古い「ザッタ類」と、「行かんジャ（ヂャ）ッタ」「行かんヤッタ」の否定辞「ン」が含まれた形がどちらも見られる。少年層（1947～1952年生）では広く「行かんヤッタ」が占めているが、北九州に一部「行かんカッタ」の形が見える。国立国語研究所編（1999）の「図151 行かなかった」においても、福岡県では「ザッタ類」と「ン」挿入形がともに使われている。この図では九州に近い中国地方と新潟に＜ikankatta＞（イカンカッタ）とそれに類する形が広まっており、関西地方にもわずかに見られる。中国地方と関西地方ではそれぞれ「ザッタ類」・「ナンダ」と併用されており、これについて大西（2014）は次のように述べている（p.73）。

動詞は基本的に動作を表すが、その否定は状態性に意味素性が変わる。そのような状態性を表す典型は形容詞である。そこで、ナンダやザッタといった不規則な形を捨て、形容詞の過去形の語尾のカッタを取り込んで、生み出されたのがンカッタである。

「ンカッタ」は共通語「一ナカッタ」の影響とする説もあるが、井上（1998）は、「一ンカッタ」使用地域が共通語をいち早く取り入れたとする点と、「行かんかった」の発生時期が西日本一般の共通語化の進行より早い点で難点があると指摘している。これらのことから、先の九州方言学会（1969）の図で北九州に一部見られた「行かんカッタ」は中国地方の「ンカッタ」が流入したものと考えることができる。

二階堂（1997）の「(11). (人を捜すように頼まれて)『部屋には居なかった』と伝える時」の調査から、博多でも「オランカッタ」が使用されていることがわかり、このことから、中国地方から北九州に入ってきた「ンカッタ」が次第に博多方面まで広がっているといえる（2-3-3. で再度触れる）。

また、吉岡（1998）では、「(部屋には)居なかった」の方言形「オランカッタ」が、北九州市では50代以上の年代で2～3割の使用があり、福岡市では60代以上で1割程度にとどまっているのに対し、福岡市の中・高校生、大学生で6割近く、社会人20代では7割を超えているとしている。一方、方言形の「オランヤッタ」は、北九州市では全年代を通して5割前後の使用があるのに対し、福岡市では「オランヤッタ」ではなく「オランカッタ」が優勢になりつつあるとしている。杉村（2003）によると、福岡市の「(部屋には)居なかった」の方言形では「オランカッタ」が優勢だが、依然として「オランヤッタ」の使用も一定数みられる（【表3】<sup>(12)</sup>）。杉村（2003）は「『おらんやった』から『おらんかった』への交替が見て取れる。」と述べているが、吉岡（1998）と杉村（2003）とを比較しても、約15年間で「オランヤッタ」の衰退ははっきりとは見られず、したがって、今後も「一ンヤッタ」と「一ンカッタ」の併存が続くものと考えられる。

【表3 「福岡独自項目6 居なかった」<sup>(13)</sup>】

性	年層	いなかった	おらんかった	おらんじやった	おらんやった	総計
女性	10	1	26		16	43
	20～30		21		10	31
	40～50	3	14		15	32
	60代以上	1	2		9	12
女性 合計		5	63		50	118
男性	10	1	8		5	14
	20～30		8		5	13
	40～50	3	4		10	17
	60代以上		4	1	9	14
男性 合計		4	24	1	29	58
総計		9	87	1	79	176

### 2-3-2. 「ンカッタ」定着の要因についての検討

2-3-1. で筆者は、福岡市における「ンカッタ」は形容詞の活用語尾「カッタ」を取り込んだ「ンカッタ」を、中国地方から北九州を経由して取り入れたものと考えられると述べた。福岡市方言において「ザッタ（ジャッタ）」に否定の意識が薄れ、否定辞「ン」を挿入した「ンジャッタ」「ンヤッタ」がすでに定着した後も「ンカッタ」が取り入れられたのは、形容詞型活用過去形の影響が大きいと考えられる。都築（1961）の指摘通り「カ語尾」は形容詞のみでなく形容動詞や形容詞型の助動詞、状態性をもつ名詞にまで適用される語勢力の強いものであり、このように、「状態性+カッタ」という形式で用いられるという特徴があった。そのため、2-3-1. に見た大西（2014）の见解に従うならば、動詞否定形に「カッタ」を接続させることも不自然ではなかったと思われる。また、2-2-2. で福岡市においても形容詞型活用のうちまず終止形・連体形の「カ語尾」が衰退したとの推測を提示したが、終止形・連体形の「カ語尾」が失われた後も「状態性+カッタ」の形は残ったと考えられる。二階堂（1997）が形容動詞連体形「派手なの」の調査について「筑後、筑前、北九州の順に（中略）カツ、カト、ナト、ナノが並ぶ。方言色を薄める順番とも言える。」と指摘するように、北九州市は福岡市より形容詞型活用の衰退が進んでいる。「ンカッタ」を先に取り入れた北九州市での「ンカッタ」の使用が福岡市より下回る点と共通する。

### 2-3-3. 「ンクナッタ」の出現

共通語の「—（し）なくなった」「—（し）ないようになった」は、福岡市方言の伝統的な方言形では「—（セ）ンゴトナッタ」のように様態の助動詞「ゴト（如）」を用いて表す（上村1983）が、新たに、「—ンクナッタ」が出現している。

「居なかった」の方言形と「居なくなった」の方言形を調査した【表4-1】と【表4-2】<sup>(14)</sup>を見ると、老年～中年層では、「オランカッタ（居なかった）」は使用するのに対して「オランクナッタ（居なくなった）」は使用しないことが分かる。一方で、若年～少年層では、「オランカッタ（居なかった）」も「オランクナッタ（居なくなった）」も使用することがわかる。また、【表

4-1】から、小倉～柳川では「オランカッタ」は「オランヤッタ」と併用されていることがわかるのに対し、【表4-2】からは、「オランクナッタ」が伝統的な方言形「一（せ）ンゴトナッタ」を駆逐している様子が見える。

この「居ランクナッタ」の発生について陣内（1996）は「a. 在来形オランゴトナッタと共通語イナクナッタとの混交形（但し、形態素の厳密な対応をつければ、共通語形は、『イナイヨウニナッタ』である。）」と「b. オランカッタからの（形容詞活用）類推形」の2つの可能性を指摘している。さらに、「一ナル」（例：アコーナル）「一ナイ」（例：シローナイ）といった伝統的な方言形が衰退する一方で、「一クナル」「一クナイ」「一クナッタ」という共通語形容詞活用の連用形を用いた表現が目立ってきているとして、「居ラン」を語幹とした共通語形の形容詞型活用との混交形の可能性も指摘している。

【表4-1 「(11). (人を捜すように頼まれて)『部屋には居なかった』と伝える時】

	小倉	折尾	東郷	古賀	香椎	博多	二日市	久留米	柳川	大牟田
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
老年	△ △	△ △	△ △	× ×	☆ ×	△ ×	△ △	☆ ☆	☆ ★ ▽	△ ☆
中年	△ ×	△ △	× ×	▽ ×	△ ×	△ △	△ △	△ △	△ △	△ △
若年	× ×	× ×	× ×	× △	× ×	× ×	× △	△ △	△ ×	△ △
少年	△ △	× ×	× ×	× ×	× ×	× ×	× △	× ×	△ △	△ △

☆ オランジャッタ

★ オリメサンジャッタバンモ

△ オランヤッタ

▽ オンシャレンカッタ、 オンナハランヤッタ

× オランカッタ

【表4-2 「(10). (人を捜すよう頼まれ)『いつの間にか、部屋には居なくなった』と伝える時】

	小倉	折尾	東郷	古賀	香椎	博多	二日市	久留米	柳川	大牟田
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
老年	☆ △	△ △	☆ △	△ △	△ ☆	△ ☆	△ △	▽ ▽	▽ ▲	△ △
中年	△ △	△ △	△ △	△ △	△ △	△ △	△ ☆	△ △	△ △	▽ ◇
若年	× △	△ ×	△ ☆	☆ △	× ×	× △	△ ×	△ ☆	▽ △	△ △
少年	× ×	△ ｂ	× ×	△ ×	× △	× ×	× ×	△ ×	▽ ▽	△ ▽

△ オランゴトナッタ

▽ オランゴツナッタ, オランゴツナッタ

△ オランゴンナッタ

▲ オンナハランゴトナッタバンモ

× オランクナッタ

☆ オランヨーニナッタ

◇ オランヤッタ

ｂ イナクナッタ



## 2-4. 方言新語

本研究で扱う事象は、共通語ではなく、伝統的な方言形からも逸脱した表現について「新方言」「ネオ方言形」「方言新語」などといった多種の用語で説明されてきたものに含まれるものと考えている。「新方言」については井上（1985）の中で「若い世代に向けて使用者が多くなりつつある非共通語形で、使用者自身も方言扱いしているもの」、また「文体的に低く位置付けられながらも若者に向けて増大する現象」と説明されている。対して「ネオ方言形」は陣内（1992）に「共通語との接触による混交形であるため文体レベルはその誕生となった既存の方言形よりは高い。」とある。「方言新語」とは陣内（1996）内の用語で「地域方言の中で生まれた新語」であり、言語接触によるものとよらないものを区別せず含む。本稿の範囲においては「動詞否定形＋カロー」など発生要因として言語接触が関わらないものや、「ーイ」形容動詞のうち使用者自身に方言意識がないものも含むため、本稿では「方言新語」と称することとする。

## 3. 予備調査

福岡市方言における「カ語尾」表現は、形容詞だけでなく形容動詞や一部の助動詞、名詞にまで及ぶ適用範囲の広いものであり、品詞の枠を超えて状態性の意味を持つ語に使用されているものと考えられる。【表1】における「赤い」と「下手（だ）」「静か（だ）」の形容詞型の活用を参考に、【表5-1】【表5-2】を作成した。【表5-1】【表5-2】は形容動詞と動詞に形容詞型活用語尾それぞれを接続させた表現であり、実際には使用されていない表現も含まれる。本稿では、【表5-1】のようなイ語尾も含んだ活用体系を「形容詞型活用」とする。

【表5-1 形容動詞における形容詞型活用】

形容動詞		語幹拍数			
	語幹	活用語尾	2拍(ひま)	3拍(静か)	4拍(大変)
終 止 類	非過去断定形	ーイ	ひまい	しずかい	たいへんい
	過去断定形(下降)	ーカッタ	ひまかった	しずかかった	たいへんかった
	過去断定形(上昇)	ーカッタ?	ひまかった?	しずかかった?	たいへんかった?
	推量(下降)	ーカロー	ひまかろう	しずかかろう	たいへんかろう
	推量(上昇)	ーカロー?	ひまかろう?	しずかかろう?	たいへんかろう?
接 続 類	非過去連体形	ーイ	ひまい	しずかい	たいへんかった
	過去連体形	ーカッタ	ひまかった	しずかかった	たいへんかった
	中止形	ークテ	ひまくて	しずかくて	たいへんくて
	仮定形	ーカッタラ	ひまかったら	しずかかったら	たいへんかった
派 生 類	否定形(下降)	ークナイ	ひまくない	しずかくない	たいへんくない
	否定形(上昇)	ークナイ?	ひまくない?	しずかくない?	たいへんくない?
	なる形	ークナル	ひまくなる	しずかくなる	たいへんくなる
	なった形	ークナッタ	ひまくなった	しずかくなった	たいへんくなった



【表5-2 動詞における形容詞型活用】

動詞		語幹の形				
	語幹	活用語尾	否定(せん)	肯定(する)	進行態(しよる)	結果態(しとる)
終止類	非過去断定形	—イ	せんい	するい	しよるい	しとるい
	過去断定形(下降)	—カッタ	せんかった	するかった	しよるかった	しとるかった
	過去断定形(上昇)	—カッタ?	せんかった?	するかった?	しよるかった?	しとるかった?
	推量(下降)	—カロー	せんかろう	するかろう	しよるかろう	しとるかろう
	推量(上昇)	—カロー?	せんかろう?	するかろう?	しよるかろう?	しとるかろう?
接続類	非過去連体形	—イ	せんい	するい	しよるい	しとるい
	過去連体形	—カッタ	せんかった	するかった	しよるかった	しとるかった
	中止形	—クテ	せんくて	するくて	しよるくて	しとるくて
	仮定形	—カッタラ	せんかったら	するかったら	しよるかったら	しとるかったら
派生類	否定形(下降)	—クナイ	せんくない	するくない	しよるくない	しとるくない
	否定形(上昇)	—クナイ?	せんくない?	するくない?	しよるくない?	しとるくない?
	なる形	—クナル	せんくなる	するくなる	しよるくなる	しとるくなる
	なった形	—クナッタ	せんくなった	するくなった	しよるくなった	しとるくなった

一部の形容動詞は形容詞型活用であり、終止形・連体形におけるカ語尾の衰退、イ語尾形容動詞の発生後も他の活用形では形容詞型活用が行われていることが考えられる。また、動詞においては形容詞の活用語尾「カッタ」を取り込んだ否定形の「ンカッタ」が定着している。ここから「ンクナッタ」が生じており、さらに形容詞型の活用が広がっているものと予測される。

第2節でみた種々の先行研究から、2016年現在の福岡市方言の形容詞型活用の体系は次のようなものが予想される。

- ・カ語尾は終止形・連体形では衰退している。終止形・連体形ではイ語尾に移行しつつある。
- ・終止形・連体形以外の活用形では形容詞型活用が使用されている。
- ・動詞においては、形容詞の活用語尾「カッタ」を取り込んだ否定形の「ンカッタ」が定着している。
- ・否定形の「ンカッタ」から「ンクナッタ」が生じており、さらに形容詞型の活用が広がっている。

この予測をもとに、予備調査として福岡市在住歴18年以上の20代男性3人に対してアンケートを行った。形容動詞35種と動詞27種について、「○：使う。・△：使わないが聞いたことがある。・×：聞いたこともない。」の選択肢から一つ選んでもらった。予備調査の結果から、形容動詞についてはカ語尾が現れる終止形と連体形について、カ語尾とイ語尾それぞれを調査項目とした。また、形容動詞は語彙により差が生じたため、10種（「暇イ」「楽イ」「変イ」「変ナイ」「静カイ」「上手（じょうず）イ」「不便イ」「曖昧イ」「親切イ」「大変イ」）の語を調査語彙として、語彙ごとの広がり方を検討する。一方、動詞は語彙による差があまり出なかったため、サ変動詞「する」のみを対象とした。動詞では否定形の「ンカッタ」から形容詞型活用が広がっていると考えられるため、過去断定形「一カッタ」の否定形「セン一」、肯定形「スルー」、進行態「シヨル




一」、結果態「シトルー」と、否定形と肯定形における各活用形を調査項目とした。

さらに「ヤロー」からの類推から「一カロー」が接辞化し、これが上昇調で用いられる傾向が見られる。そこで「一カロー」については、上昇調と下降調とに分けて調査することとする。

#### 4. 本調査の調査方法

本調査は、福岡県福岡市の高校生に対するアンケート調査を2016年11月に行った。アンケートの有効回答数は1年生82名（男47：女35）、2年生27名（男13：女14）、3年生100名（男44：女53：無記入3）、計209名（男104：女102：不明3）である。<sup>(15)</sup>その他については自由記述欄も含め参考回答とした。また、無記入や二重回答があった場合は回答項目（例文）ごとに除いているため、項目によって全体の数が異なる場合がある。設問1は各例文について「○：使う。・△：使わないが聞いたことがある。・×：聞いたこともない。」の選択肢から一つのみを選んでもらう選択式アンケート、設問2は自由記述欄とした。なお、アンケートの所要時間は10分以内を想定して作成した。

#### 5. 調査結果

本節のグラフはすべてアンケート調査の設問1で得た回答の比率を示している。棒グラフの下から順に○の回答、△の回答、×の回答をパーセントで配置した（凡例：○、△、×）。また、示した例文はアンケート調査の質問文から引用したものである。質問文は設問の意図が知られないようにランダムに並べており、行頭の番号はその際の通し番号である。「(↘)」は文末のイントネーションを統一するために付し、アンケート調査では「(↘)」は文の語尾（文末）が上がらないことを示しています。」と注を付けた。

##### 5-1. カ語尾の使用実態

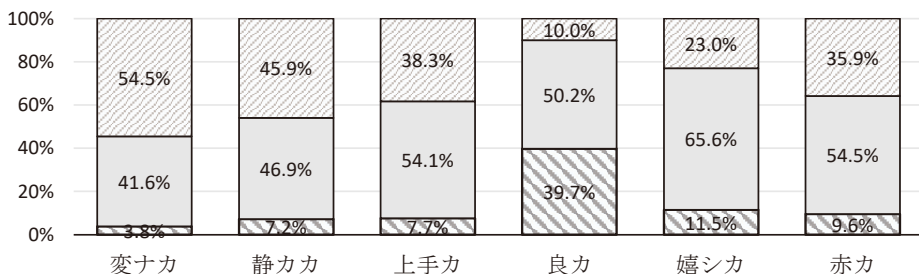
アンケートでは「良カ」「赤カ」「嬉シカ」のカ語尾形容詞3語と、「変ナカ」<sup>(16)</sup>「静カカ」「上手（じょうず）カ」のカ語尾形容動詞3語について、それぞれ非過去断定形と非過去連体形を計12文の例文で示した。

47. このくらい気にせんで良<sup>よ</sup>かよ。(↘)

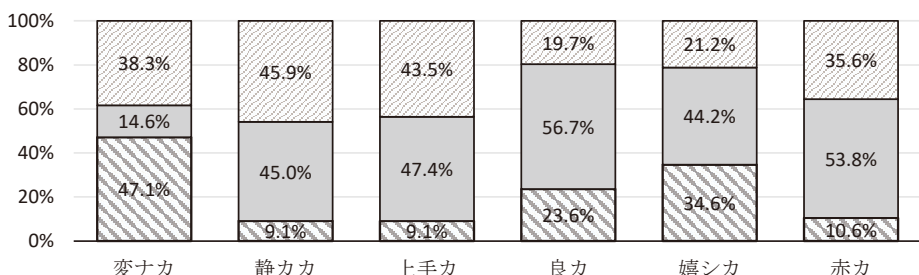
66. 子供<sup>こ</sup>たちが寝<sup>しず</sup>とったら静<sup>しず</sup>かかね。(↘)

本調査の結果、一部の語彙を除き、ほぼ使用されていないことが分かった。上村（1983）に「カ語尾域では、イ（暑イ）・ナ（上品ナ）語尾に言うこともあって、カ語尾は感動表出に、イ・ナ語尾は説明表現に、と使いわけている。」とあるように「良カ」（断定形39.7%、連体形23.6%）「嬉シカ」（連体形34.6%）に使用が多く見られる。「良カ」に関しては特に使用が目立ち、断定形で顕著である。<sup>(17)</sup>カ語尾で最も使用の回答が多かったのは連体形「変ナカ」（47.1%）であった。ただし、これに関しては例文を「変<sup>へん</sup>な<sup>な</sup>か格<sup>かつこう</sup>好」と表示していたために「変な格好」と勘違いし回答

された危険がある。断定形「変ナカ」や先行研究を踏まえても疑問が生じる。実際にアンケート回答者複数人から勘違いしたという意見を得たため、連体形「変ナカ」は今回考察対象外とする。



【図2-1 「カ語尾」〈非過去断定形〉】



【図2-2 「カ語尾」〈非過去連体形〉】

カ語尾においては△回答の割合が非常に高かった。うち形容詞では、○回答が34.6%あった「嬉シカ」連体形を除き全て5割を超えている。ただし、ここで注目したいのが断定「変ナカ」における×回答が最も多いことである。断定形において「変ナカ」は、「静カカ」「上手カ」それぞれと有意に差があった。「変ナカ」は他のカ語尾の規則とは異なり「カ」の前に「ナ」が挿入されているように見える。このことから推測されるのは、本被調査者にはカ語尾表現を共通語の「ーイ」を「ーカ」に取り換えたものとして認識している回答者がいるのではないかということである。博多弁として「カ語尾」があまりに有名であるため、実際の生活の中で聞いたことがなくとも、聞くとの回答が多く出て不思議ではない。そのため「ーイ > ーカ」という規則の例外である「変ナカ」の△回答が少なかったのではないかと考える。この結果を踏まえ、以降の調査結果について考察する。

## 5-2. イ語尾形容動詞

### 5-2-1. 「ーカ > ーイ」によるイ語尾化

2-2-3で福岡市方言には形容動詞の終止形・連体形のカ語尾をイ語尾に取り換えたイ語尾

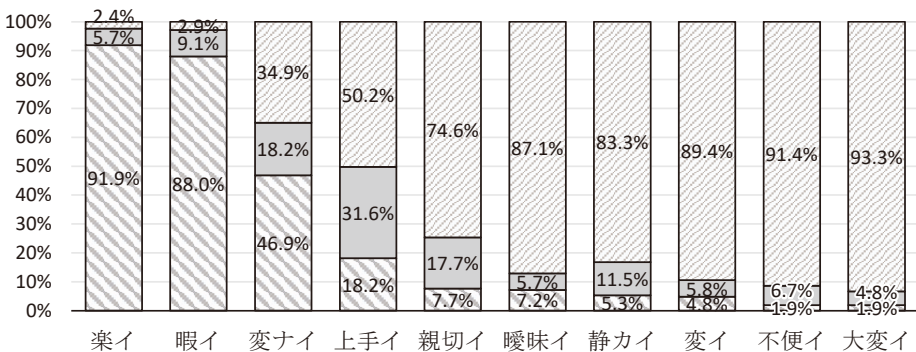
形容動詞があることを確認した。先行研究においては「ヘタイ」「ヘンナイ」など限られた語彙の調査であり、語彙ごとの広がりが見づらかった。5-2-1. では複数の語彙からイ語尾形容動詞の広がりを検討する。語幹の拍数による影響を見るため、2拍の「暇イ」「楽イ」「変イ」、3拍「静カイ」「上手（じょうず）イ」「不便イ」「変ナイ」、4拍「曖昧イ」「親切イ」「大変イ」を例文で挙げた。「変（だ）」については共通語における「変だ」の語幹「変」とカ語尾「変ナカ」の語幹「変ナ」の2形を含めた。

81. 今日はお客さん少なくてずっとひまい。

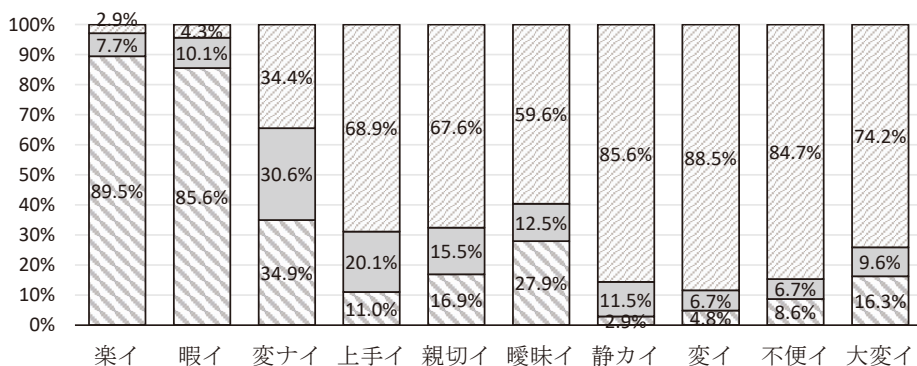
15. 楽しい練習とか意味ないけん。

断定形・連体形でそれぞれ「楽イ」91.9%・89.5%、「暇イ」88.0%・85.6%とこの2語の使用は圧倒的であり、定着していると言ってよいだろう。それに次ぐ「変ナイ」も46.9%と半数近いが、吉岡（1998）で若年層のそれが7～8割の使用率があったことを踏まえると、衰退の様子がうかがえる。

このように、イ語尾が衰退してきている語彙がある一方、使用が9割に及ぶものがあることから、イ語尾化の進行には2つの要因があることが考えられる。一つは陣内（1982）で説明されている「一カ > 一イ」による要因である。断定形・連体形ともに特殊な形の「変ナイ」の○回答が「変イ」に比べはるかに多いのは、カ語尾「変ナカ」の影響と考えるのが自然である。「変ナカ」と同じく形容詞型活用をとりやすい「上手イ」についても、使用は「変ナイ」ほど高くはないものの△回答が他の項目に比べ多い。【図2-1・2】において△回答が多かったことと共通する特徴である。ただし、これらについては、被調査者が1998～2001年生まれであることから、吉岡（1998）の調査の時点で既に広まった表現を習得したものであることが予想される。「変ナカ」の使用率から見て、少なくとも「変ナカ」に関して、10代・20代においては陣内（1982）の説にある話者内での「『一カ』語尾→『一イ』語尾」という「取り換え」であるとは考え難い。

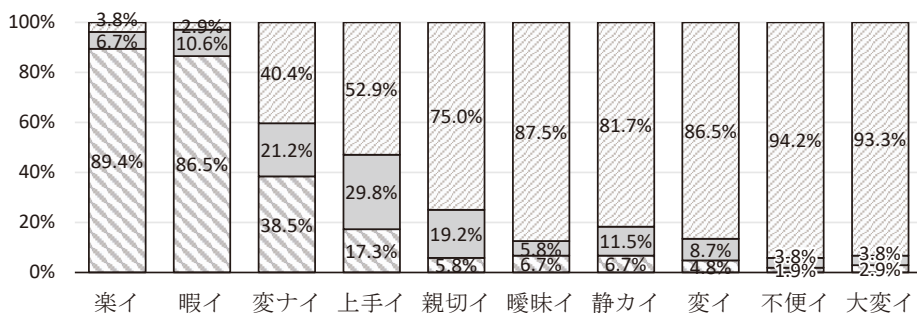


【図3-1 イ語尾形容動詞（非過去断定形）】

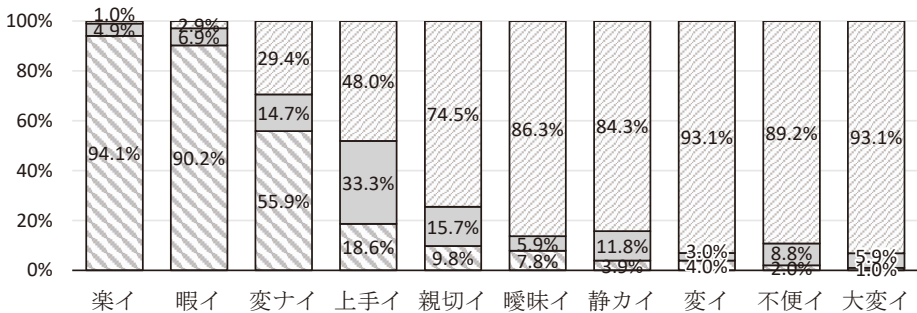


【図3-2 イ語尾形容動詞〈非過去連体形〉】

ここで男女差について見てみると、全体としては女性のほうが使用率が高いようである。特に目立つのが「変ナイ」である。これは、カ語尾非過去断定形での×回答において、男性の49.0%を女性の60.8%が上回っていたことと比較して興味深い。話者内での『「カ」語尾→『「イ」語尾』という「取り換え」ではないという説は、特に女性に当てはまりそうである。また、女性のほうがより上の世代で使われている語彙に敏感であると言えるだろう。



【図3-3-1 イ語尾形容動詞〈非過去断定形〉男性】



【図3-3-2 イ語尾形容動詞〈非過去断定形〉女性】

### 5-2-2. 短縮形俗語の影響によるイ語尾化

イ語尾化の進行におけるもうひとつの要因として考えられるのは、短縮形の俗語の影響である。ここで再び、カ語尾が形容詞のみでなく形容動詞や形容詞型の助動詞、状態性をもつ名詞にまで適用される語勢力の強いものであったことを確認したい。つまり、福岡市方言は状態性という特性に敏感な体系を有しているということである。本調査を補足する参考として福岡市在住歴が15年以上（1名を除き18年以上）である20代前半の12名に対し、上記10語に加え【下手イ、邪魔イ、雑イ、綺麗イ、謎イ、無理イ】<sup>(18)</sup>の6語について使用するかどうかをたずねた。「下手イ」「綺麗イ」はカ語尾をとりやすいもの、その他には名詞も含まれるが筆者の内省と自然傍受の経験からありうると判断したものである。追加した6語について、「下手イ」「邪魔イ」は12人全員、「謎イ」は11人、「雑イ」は9人から使用すると回答が得られ、「綺麗イ」「無理イ」については誰も使用していなかった。「下手イ」の使用には陣内（1982）にある「一カ > 一イ」による要因が大きいと考えてよいだろう。また、同様の言い方は他にないかと尋ねたところ、「きもい」「うざい」「めんどい」「まぶい（眩しい）」「けむい」「恥ずい」などの短縮形、「みどりの」「ピンクの」「カス」「雑魚」など俗語的な「名詞+イ」のほか、「やばい」「ぬくい」「多い」が挙げられた。話者の意識としては、イ語尾形容動詞についても他の若者言葉、俗語と同様に考えられている可能性がある。インフォーマントからは、単なる若者言葉で全国的にありそうだという意見も聞かれた。しかし、対照資料として東京都から移住歴のない6名の知人にも同様の質問をしたところ、「雑い」の使用が1名から、4名から「謎い」について「使っているかもしれない」との回答が得られた。その他の語は全く使わないようである。北原（2004）において「きもい」「きしょい」「うざい」などの省略形の俗語について言及がある。これらは若者の間で以前から使われていたとして、次のように述べている（p.129）。

（「きもい」「きしょい」は）「気持ち悪い」や「気色悪い」と完全に同じ意味だとは言えないようです。例えば胃がむかつくときに「気持ち悪い」と言いますが、「きもい」にそのような使い方はなく、「あいつ、かっこつけすぎてマジきもい」のように人やモノから不快な気分を感じたときに使います。

同様に、「きしよい」は「実際に吐き気を催す場面」ではなく、「言いやうのない不快感を催す人や場面」に対して用いられると説明されている。どちらの短縮形も人やモノに感じる不快な気分を表し、本来の形が表す意味の範囲から、自分の外に要因を見つける意味に限定される。また、「うざい」は「うるさくつきまといわれることに対する不快な気分」とあり、これも他人に感じる不快感という点で同様である。つまり、短縮形は客観的な状態を述べることに特化した形式といえるのではないか。短縮形とイ語尾形容動詞はその形「ーイ」と、状態性を表す点で共通した特徴を有している。さらに、圧倒的な使用が見られた「楽イ」と「暇イ」、補足の調査で使用が見られた「下手イ」「邪魔イ」「謎イ」「雑イ」はいずれも語全体で3拍となる。短縮形の意識があるならば、拍数の短い語が好まれることも不思議ではない。

### 5-3. 動詞における形容詞型活用の広がり

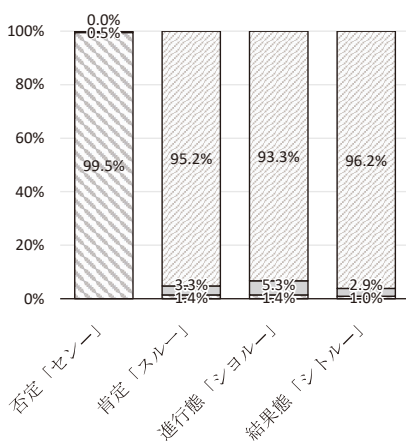
#### 5-3-1. 「動詞+カッタ」肯定・進行態・結果態

「動詞否定形(ン)+カッタ」は形容詞型活用の過去形に由来しており、「ーカッタ」が動詞否定形に接続するのは動詞否定形が状態性を持つためだということを2-3-1. で確認した。5-3-1. では、状態性を持たない肯定形における「ーカッタ」の適用範囲の広がりと、結果の状態を表す結果態での使用、その比較のため進行態もあわせて確認したい。語幹をそれぞれ否定「セン」、肯定「スル」、進行態「シヨル」、結果態「シトル」とした形容詞型活用の過去断定形を調査した。

16. 今日は一日全然勉強せんかった。(ㇿ)

14. 私今朝はランニングしよるかった。(ㇿ)

【図4】から、否定形での定着に対し、その他はほぼ使用がないのがわかる。否定形、肯定形に関しては、「ーカッタ」の形を含む過去連体形、仮定形、また過去断定形の上昇イントネーションについても同様の傾向が見られた。進行態・結果態どちらも使用がない理由として考えられるのは、ひとつは本来結果態のみを表す「トル」が進行態をも表すようになってきていることである。「ヨル」「トル」は排他的な関係であったが、近年では「ヨル」が「トル」に取って代わられていることが指摘されている<sup>(19)</sup>。また、最大の要因は、既に「ヨル」「トル」という活用を担う助動詞、つまり動詞型の活用形を有しているためではないだろうか。「シヨルカッタ」「シトルカッタ」の形がないのは、過去を表す場合は「シヨッタ」「シトッタ」のように「ヨル」「トル」の活用で表すことができ、わざわざ過去を表す「カッタ」をつけ加える必要がないものと考えられる。



【図4 「動詞+カッタ」】



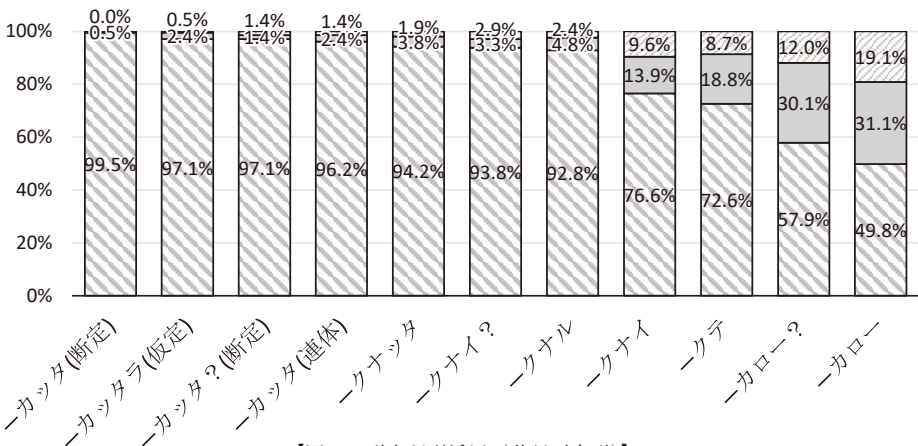
### 5-3-2. 「動詞+カタ」活用

2-3-3. で「ークナツタ」という形が若年層で急激に広がる様子を見たうえで、「ークナツタ」は「ーンカタ」からの類推によって生じた新形であり、「ークナツタ」の登場は形容詞型活用の拡張であると予測した。5-3-2. では、動詞否定形「ーン」を語幹とした形容詞型活用の過去形及びその他活用形の広がり、また肯定形への広がりについて考察する。アンケートの例文は全てサ変動詞「する」（「勉強する」など漢語サ変も含む）で示した。活用形は【表1】を参考にした。複数の形式がある仮定形から「ーカタラ」を選んだのは、既に否定形で定着している「ーカタ」と同じ形を含むため、また、若年層では条件表現として「ーカラ」が優勢になりつつあることが指摘されているためである（陣内1998）。派生類の否定形においてはカ語尾の「ークナカ」ではなく、若年層における使用で指摘のある「ークナイ」とした。

37. さすがにテスト前日は勉強するだろう。（ㇿ）

48. 大学に入ってからあんまり電話せんくなった。（ㇿ）

本調査においても、否定形における過去断定形は定着しているといつてよい数値である。過去断定形と同形の過去連体形でも96.2%、仮定形も97.1%となっており、「ーンカタ」を含む活用形は問題なく使われているようである。吉岡（1998）で既に高い使用率であった「ークナツタ」は本調査においても同様の結果が出ており、さらに過去形だけでなく現在形「ークナル」も92.8%と使用が認められる。否定形「ークナイ」では、上昇イントネーション「ークナイ？」が93.8%と上記の活用形と同様に高いのに対して、下降イントネーションは72.6%で、17.2%もの差が開いている。平塚（2014）に「若年層を中心に『ーンクナイ』『ーンクテ』といった活用も聞かれるが、後者はあまり用いられず、伝統的な『ーンデ』が用いられることが多い。」とあるが、中止形「ーンクテ」は「ーンデ」に浸透を拒まれながらも、本調査範囲では76.6%と下降イントネーション「ークナイ」に劣らない回答が得られている。状態性を有する動詞否定形においては形容詞型活用が広く用いられていることがわかる。



【図5 形容詞型活用（動詞否定形）】

肯定形においては「一クナイ？」(81.8%)と「一クテ」(40.2%)の使用が目立つ。関西方言における「一クナイ？」については高木(2009)に詳細な分析がある。否定「一ンクナイ・ヘンクナイ」の発生と形容詞否定疑問形式に由来する「コトナイ」から生じた形であり、「肯定+クナイ？」では同意要求の意味に特化すると説明されている。平塚(2009)は福岡市方言での動詞肯定形に接続する「一クナイ？」について、前節要素に注目して分析している。前接要素別の容認度は否定形のとき最も高く、次に状態を表す動詞、動作動詞の順になるようである。しかし、本調査ではサ変動詞を用いたが8割の使用が見られ、わずかに数年の間に急激に広がったことがうかがいしれる。中止形「一クテ」も「一クナイ？」の影響を受けたものと思われる。また、動詞に接続助詞「て」を接続させた場合には表せない用法を「スルクテ」が表せることも要因の一つとして考えられる。アンケートの例文には「33. 来月引っ越しするくて、今忙しいっちゃん。」を示した。回答者の中には例文中の「くて」の下に原因・理由を表す接続助詞「けん」を書き添えている者がいた。「引越しするくて」を「引っ越しして」と交替させることはできない。「～して」では表せない用法を「スルクテ」が有しているという点で需要があったと考えられ、受け入れられやすかったのではないだろうか。推量形「一カロー」は共通語形容詞にはあまり使われない活用形である。動詞否定形においては、他の活用形より割合が下がるが使用が認められ、福岡市方言が有する形容詞型活用として広がりを見せている。また、肯定形においても○回答が上昇イントネーション13.5%、下降イントネーションで11.1%見られる。「一カロー」については5-4.で詳しく考察する。肯定形においては、否定形の活用形をもとにして部分的に形容詞型活用が行われているようである。

#### 5-4. 推量「一カロー」

先の【表1】の通り、福岡市方言においては形容詞の推量形は「形容詞語幹+カロー」で表される。一部の形容動詞においても形容詞型活用をするため、「状態性+カロー」という形式が存在していると言える。ただし、「一ヤロー」も頻繁に使われており、2形が併存している。そのため、形容動詞におけるカ語尾は過去形「カッタ」推量「カロー」などが語幹に下接する場合、特に語幹と「カッタ」「カロー」との間に切れ目が感じられやすい。

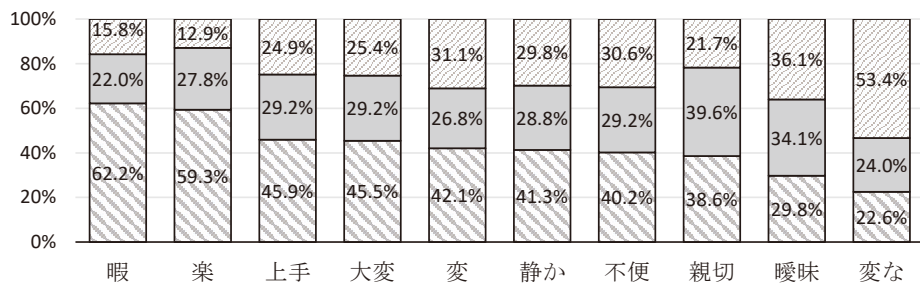
##### 5-4-1. 「変カロー」

まずは形容動詞について見ていきたい。アンケート調査では、イ語尾形容動詞と同じ10種(図8に示す10語)の形容動詞を挙げた。

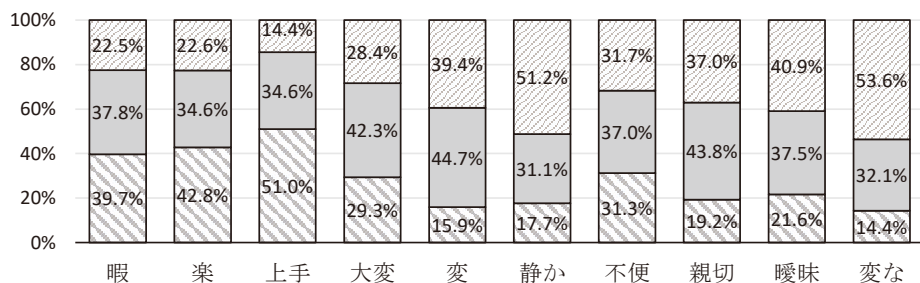
59. テレビもないけんあの子ひまかろう。(ㇿ)

89. 部屋に時計がないと不便かろう？

【図6-1】と【図6-2】を見比べてみると、「上手カロー」を除き、使用するとした回答者の割合は上昇イントネーションが上回っている。下降イントネーションでは、△回答の割合が全体として最も多く、最も数値の低い「静カカロー」においても3割の回答が得られている。これは【図2-1・2】のカ語尾と同様の傾向であるが、カ語尾における○回答の割合が「変ナカ」3.8%、



【図6-1 「形容動詞+カラー」(上昇イントネーション)】



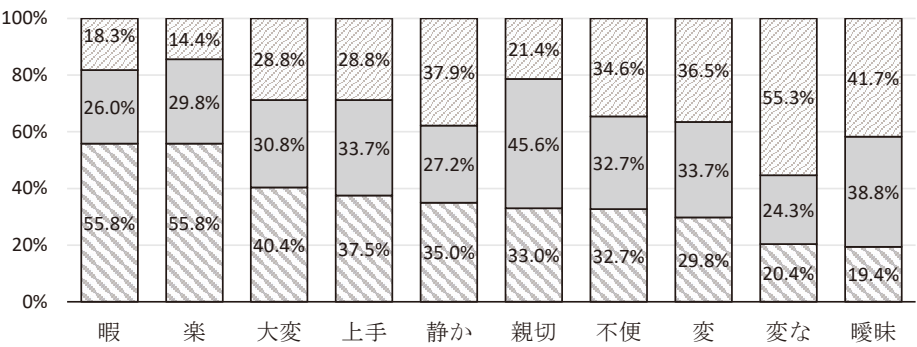
【図6-2 「形容動詞+カラー」(下降イントネーション)】

「静カカ」7.2%、「上手カ」7.7%であるのに比べ「一カラー」は段違いに多い。終止形・連体形「カ語尾」の衰退が進む一方で、推量形の活用は残存していると見ることができる。

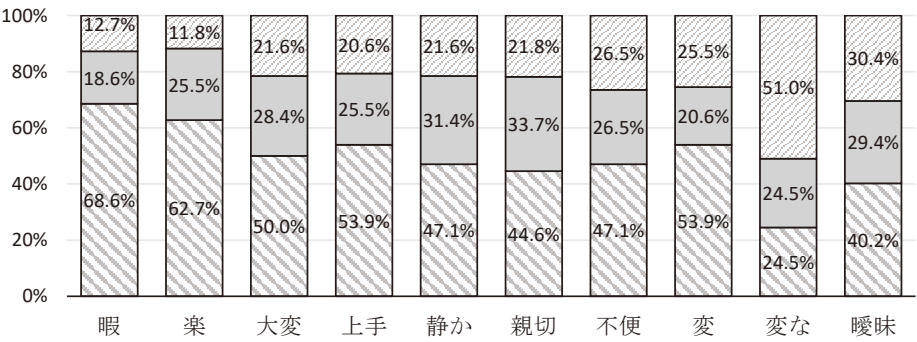
ただし、「変カラー」「変ナカラー」について「変カラー」のほうがより使われており、特に上昇イントネーションで倍近く差が開いている点に疑問が生じる。先述の通り、形容動詞「変だ」に対応するカ語尾は「変ナカ」である。イ語尾形容動詞でも「変ナイ」の使用が認められ、「変イ」はほとんど見られなかった。「変ナカ」もしくは「変ナイ」の活用形であれば「変ナカラー」として現れるはずである。先ほど動詞肯定形「一クナイ？」の考察の中で見た平塚（2009）では、共通語形容動詞語幹「変」つまり「変クナイ？」もその対象としている。福岡市の男性28%、女性は68%が「使う」と回答しており、「自分は使わないが、聞くことはある」の回答者はそれぞれ68%と32%である。さらに否定の意味で用いられる場合にも容認されるようであり、福岡市方言における「変クナイ」は同意要求に特化した形式ではないことが分かる。「変カラー」「変クナイ」を形容詞型活用の一部だとすれば、終止形・連体形をカ語尾とする「変ナカ」の活用とは別に、新たに「変」を語幹とした形容詞型活用が生じており、若年層ではこの新たな活用が優勢になっていることが推測できる。「変カラー」「変クナイ」が生じた要因としては、名詞述語型活用の影響が考えられる。現在、名詞述語型における語幹は共通語と同じく「変」であり、「変ヤロー」「変ヤナイ」といった形で用いられる。そこで、語幹が形容詞型「変な」と名詞述語型「変」で異なるのは非合理的だという意識が働く。形容詞型活用においても語幹を「変」にそろえ、「一

カロー」「一クナイ」と活用語尾を下接させることで「変カロー」「変クナイ」の形が生じたのではないだろうか。

男女差からも「変カロー」「変ナカロー」の使用差について見てみると、男性の両形の差に比べ、女性は「変カロー」の○回答53.9%に対して「変ナカロー」24.5%と大きく差が開いている。これは先ほどの「変クナイ？」における男女差の傾向とも一致しており、上記の変化は女性が先導しているらしい。その他の語彙についても男性より女性による使用が多いことが分かる。「変ナカロー？」を除いて最も低い「曖昧カロー？」でも、女性は40.2%が使用すると回答している。また、【図3-1】のイ語尾形容動詞において語彙による使用差が激しかったのと比較して「一カロー？」はその差が小さい。国立国語研究所（1994）の「静かだろう」の図では福岡県内に「静カカロー」が見られず、名詞述語型が好まれていた。本調査で現れた「静カカロー？」は「変カロー？」と同様新たに形容詞型活用が適用された可能性もあるのではないか。



【図6-3-1 「形容動詞+カロー」(上昇イントネーション) 男性】



【図6-3-2 「形容動詞+カロー」(上昇イントネーション) 女性】

#### 5-4-2. 「一カロー」の接辞化

動詞においては5-3-1. と同様、語幹をそれぞれ否定「セン」、肯定「スル」、進行態「シ

ヨル」、結果態「シトル」として「一カロー」を下接させた。この4語の使用差についても「一カット」と同じ傾向が見られ、否定形が圧倒的に容認された。ただし、上昇イントネーションにおいては○回答が肯定形13.5%、進行態で12.4%、結果態で16.3%あり、△回答を含めると30～40%にのぼる。否定形に現れやすいという点で状態性の特性を好むと言えるが、形容動詞において語彙別の使用差があまり見られなかったことも踏まえると、「一カロー？」はより汎用性が高いと言えることができる。

5-4-2. のはじめに見たように、「一カロー」は上昇イントネーションで使用されやすいことから、下降イントネーションを用いる場面では「一ヤロー」が選択されると予想される。また、アンケートに設けた自由記述欄には「『かろう』よりも『かろ?』」「カローは決まったことにいう感じ」といった意見があった。筆者の内省として、どちらも納得できる意見である。前者については、上昇イントネーションおよび疑問形で用いるということであろう。長音化しないのは「一ヤロー」においても「一ヤロ」と発音される場合が多いことが影響していると思われる。後者について、本調査範囲では「一カロー」の使用実態について詳しく分析することはできないが、例えば「～センカロ？」と相手に問いかける場面であればそれは軽い確認程度であり、「話し手が事実成立の見込み」を持つ〈同意要求〉<sup>(20)</sup>の用法である。この点で「一カロー」は高木(2009)における「クナイ」と共通した特徴を持っている。どちらも形容詞由来であることが関係しているだろう。「クナイ」と比較すると使用率と使用範囲ともに小さいが、「カロー」はある用法を担って形容詞型活用の中の活用形のひとつから接辞に変化しつつある傾向がうかがえるのではないだろうか。

## 6. まとめ

福岡市出身の10代・20代を対象とした調査によって、次のことが明らかとなった。

- (1) 形容詞型活用終止形・連体形における「カ語尾」(「ヨカ」「ヘンナカ」等)の衰退に伴い、形容動詞終止形・連体形の「イ語尾化」(「ヘンナイ」等)が生じていることについては、先行研究と同様の結果であった。
- (2) (1)の要因については、陣内(1982)で指摘のある「一カ > 一イ」という取り換えだけではなく、短縮形の俗語(「きもい」「きしよい」等)が影響しており、形容動詞において新たな形容詞型活用(「ヒマイ」等)が行われている。
- (3) 打消過去「一ンカット」の定着には、当該方言の形容詞型活用に現れる「状態性+カット」の形が影響しており、動詞否定形においても形容詞型活用(「センカロ」「センクテ」等)が生じ、広がっている。
- (4) 推量の形容詞型活用語尾「一カロー？」は形容詞・形容動詞・動詞否定形だけでなく、状態性を持たない品詞にもその適用範囲を広げている。「一カロー？」は、形容詞型活用の中の活用形のひとつから、接辞に変化しつつあるものと考えられる。

注

- (1) 「福岡市方言」は平塚（2014）に拠る。筑前方言より限定された地域を指すため、また、他方言との接触の多い都市部である福岡市を指すためこのように呼ぶ。
- (2) 福岡市、「福岡市推計・登録人口（最新）」（<http://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/jinkou/jinnkousokuhou.html>）
- (3) 小西（2014）に拠る。
- (4) 小西（2014）に、「共時的には、形容名詞『ヘタ』と形容詞『ヘタカ』が併存していると捉えるべきかもしれない。」と指摘がある。
- (5) ただし、杉本（1993）の調査結果は被調査者の人数が3人と少人数である点に問題がある。
- (6) 表記は出典のままとした。
- (7) イ～ヤ混合型が本稿におけるイ語尾形容動詞に該当する。
- (8) 陣内（1982）に「共通語＝規範の形容詞活用を“イ型”、いわゆる形容動詞活用を“ダ型”と呼ぶ。」とある。
- (9) 「変ナカ」という形について、飯豊他（1983）に「『大きなか・徒然なか』の様に、形容動詞『ナリ活』を、形容詞化して、その語尾を『カ』語尾化している用法が、筑前の宗像・粕屋・筑紫方面に現われる。」との記述があり、「変ナカ」に関しても同様に生じたものと思われる。
- (10) 「(行か) ザッタ」とは、打消の助動詞「ザリ」に由来する表現である。大西（1999）には「このように打消過去は、上代から中世半ばまで「ず・ざり・+き・けり・つ」のような語構成で表されていたが、中世後期に入ると「なんだ」が現れる。（中略）その一方で、この時期「ざった」もわずかに見られる。」とある（pp.98-99）。
- (11) 「行かザッタ」「行かジャ（ヂャ）ッタ」「行かヤッタ」「行かンジャ（ヂャ）ッタ」「行かンヤッタ」の表記は出典のままとした。
- (12) ただし、これは複数回答の集計結果である。
- (13) 杉村（2003）に拠る。
- (14) 二階堂（1997）に拠る。
- (15) 実際のアンケート回収数は497名であったが、今回調査結果の中で示した数値は福岡市内から移住歴のない回答に絞り209名となった。調査に協力してもらった高校では、クラス毎にアンケートを実施したため、調査後にフェイスシートによって有効回答か否かを判断した。
- (16) 形容動詞「変だ」について、カ語尾型では「変カ」「変ナカ」の両形が考えられる。杉本（1993）によると、福岡、佐賀、長崎の三地域の若年層において「変カ」は使用54.1%、「変ナカ」は使用81.9%であり、「『変なか』の方が、当地域ではより一般的な形と考えられる」という。これに基づき、本調査では「変ナカ」のみを調査した。
- (17) 神部（1980）に「『好カ』『無カ』の二語は、特に生命力が強く、その分布領域も、他のカ語尾形容詞の分布領域も、他のカ語尾形容詞の分布領域を超えている」という指摘がある。
- (18) 都築（1961）では「カ語尾化する」といい、また、陣内（1982）にはイ～ヤ混合型、平塚（2014）

には「形容詞的な活用を多くとる語」「一部形容詞的な活用をとる語」という指摘がある。

- (19) 工藤 (2014) 「シトル系形式はその意味用法が保持されるとともに、シヨル系の領域まで拡大されていていっている方言がある。」他。
- (20) 高木 (2009) 「〈話し手の見込み〉を表す否定疑問文は、話し手が事実成立の見込みを持っていることを表すものである。」ここで言う「否定疑問文」は「一クナイ」を指す。
- (21) 三宅 (2011) における「ダロウ」の「確認要求」の用法は、「話し手にとって何か不確実なことを確認するものであるので、話し手の情報認識の点で当てはまらないように思われる。ただし、「カロー」は接辞化の途中段階であり、今後用法は広がる可能性がある。

## 参考文献

- 井上史雄 (1985) 「第2部 解釈と考察」『新しい言葉の伝播過程—東京中学心理調査—』特定研究「言語の標準化」藤崎班報告書 東京外国語大学井上研究室
- (1997) 「ネオ方言と新方言」『西日本におけるネオ方言の実態に関する調査研究』平成8年度科学研究費補助金研究成果報告書
- (1998) 『日本語ウォッチング』岩波書店
- 上村孝二 (1983) 「1 九州方言の概説」『講座方言学9 九州地方の方言—』国書刊行会
- 大西拓一郎 (1999) 「新しい方言と古い方言の全国分布—ナンダ・ナカッタなど打消過去の表現をめぐる(地域方言と社会方言)— (新しい方言・古い方言)」『日本語学』13 (18) 明治書院
- (2014) 「方言分布の変化をとらえた!」『国語研プロジェクトレビュー』5 (2) 国立国語研究所
- 岡野信子 (1960) 「島郷生活語における形容詞—その構成と表現—」『福岡県立若松高校研究紀要』10 若松高等学校郷土研究会
- 金沢裕之 (1996) 「『んかった』考」『岡山大学文学部紀要』25 岡山大学文学部
- 神部宏泰 (1980) 「九州西部方言の形容語——カ語尾形容詞を中心に——」『国語教育研究』26 広島大学教育学部光葉会
- 北原保雄 (2004) 『問題な日本語——どこがおかしい? 何がおかしい?』大修館書店
- 九州方言学会 (1969) 『九州方言の基礎的研究』風間書房
- (1991) 『九州方言の基礎的研究 改訂版』風間書房
- 京健治 (2013) 「否定過去表現の展開小考—九州方言「ンジャッタ」「ンカッタ」をめぐる—」『語文研究』115 九州大学国語国文学会
- 工藤真由美 (2014) 『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
- 国立国語研究所編 (1993) 『方言文法全国地図』3 大蔵省印刷局
- (1999) 『方言文法全国地図』4 大蔵省印刷局
- 小西いずみ (2014) 「活用体系の地理的変異と記述の枠組み」『全国方言文法辞典資料集 (2) 活用体系』方言文法研究会編



- 真田真治 (2001) 『関西・ことばの動態』 大阪大学出版会
- (2011) 『日本語ライブラリー 方言学』 朝倉書店
- 陣内正敬 (1982) 「新方言「下手い」について——福岡市方言の形容詞活用——」『九大言語学研究室報告』 3 九州大学言語学研究室
- (1983) 「方言使用の地域差・男女差—人口急増都市・福岡にみられる言語接触—」『九大言語学研究室報告』 4 九州大学言語学研究室
- (1989) 「北部九州の新方言」『九州方言の史的研究』 桜楓社
- (1992) 「第6章 言語変化」『社会言語学』 桜楓社
- (1995) 『地域後の生態シリーズ九州篇 地方中核都市方言の行方』 おうふう
- (1996) 『北部九州における方言新語研究』 九州大学出版会
- (1998) 「九州方言の新動向—九州5都市方言調査より—」『九州におけるネオ方言の実態』 文部省科費費基盤研究 (A) (1) (課題番号: 07301047) 「西日本におけるネオ方言の実態に関する調査研究」 研究成果報告書
- 杉村孝夫 (2003) 「福岡都市圏に特徴的な方言形——福岡県域グロットグラム調査との比較」『コミュニケーションの地域性と関西方言の影響力についての広域的研究 研究成果報告書 No. 1』 平成12年度～平成14年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B) (1)) (課題番号: 12410111)
- 杉本妙子 (1993) 「北部九州方言のカ語尾形容詞型の形容動詞」『近代語研究』 9 武蔵野書院
- 住田幾子 (1985) 「九州方言における「カリ活用」の現況」『日本文学研究』 21 pp.177-186 梅光女学院大学日文学会
- 高木千恵 (2005) 「大阪方言の述語否定形式と否定疑問文——「～コトナイ」を中心に——」『阪大社会言語学研究ノート』 7 大阪大学日本語学研究室
- (2006) 『関西若年層の話しことばにみる言語変化の諸相』『阪大日本語研究』 別冊2 大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- (2009) 「関西若年層の用いる同意要求の文末形式クナイについて」『日本語の研究』 5 (4) 日本語学会
- 都築頼助 (1961) 「三 方言の実態と共通語化の問題点 1 福岡」『方言学講座』 4 東京堂
- 二階堂整 (1997) 「福岡 JR・西鉄沿線グロットグラム調査」『西日本におけるネオ方言の実態に関する調査研究』 平成8年度科学研究費補助金研究成果報告書
- 平塚雄亮 (2009) 「動詞肯定形に接続する同意要求表現クナイ (カ)」『日本語文法』 9 (1) 日本語文法学会
- (2014) 「福岡県福岡市方言」『全国方言文法辞典資料集 (2) 活用体系』 方言文法研究会編
- 平山輝男 (1997) 『日本のことばシリーズ40 福岡県のことば』 明治書院
- 方言文法研究会編 (2014) 『全国方言文法辞典資料集 (2) 活用体系』 2009-2013年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (課題番号: 21320086) 「日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全

『国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築」研究成果報告書

三宅知宏（2011）『日本語研究のインターフェイス』くろしお出版

吉岡泰夫（1998）「九州中核都市におけるパーセントグロットグラム調査」『九州におけるネオ方言の実態』文部省科研費基盤研究（A）（1）（課題番号：07301047）「西日本におけるネオ方言の実態に関する調査研究」研究成果報告書

吉町義雄（1952）「九州語用言活用分布相要領並補遺」『国語学』8 武蔵野書院

## 本調査で実施したアンケート

設問 1：普段のご友人との会話を思い出し、

以下の例文について、もっともよくあてはまる選択肢に○を付けてください。

注：(ゝ) は文の語尾（文末）の発音が上がらないことを示しています。

選択肢 {○：使う。／ △：使わないが聞いたことがある。／ ×：聞いたこともない。}

- |   |   |
|---|---|
| 1. 友だちが良 <sup>よ</sup> かお店教えてくれたっちゃん。(ゝ)                   | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 2. ここは若い店員さんのほうが親切だろう？                                    | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 3. 珍しく教室が静 <sup>しず</sup> かい。(ゝ)                           | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 4. 今日は誰も遅刻せんくて、時間通りに始められた。                                | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 5. もうすっかり回復しとるだろう。(ゝ)                                     | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 6. このパソコン不便 <sup>しず</sup> いね。(ゝ)                          | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 7. 今日の先生変 <sup>へん</sup> な格好 <sup>かつこう</sup> しとったよ。        | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 8. 森の中は静 <sup>しず</sup> かだろう。(ゝ)                           | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 9. ゲームせんかった日はよく眠れる。                                       | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 10. 数 <sup>かず</sup> かぞえるくらいなら楽 <sup>らく</sup> だろう？         | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 11. 静 <sup>しず</sup> かいお店は落ち着く。                            | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 12. 確認するかったところは地図 <sup>しるし</sup> に印 <sup>しるし</sup> つけとるよ。 | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 13. あの家の子 <sup>うち</sup> はピアノじょうずだろうね。(ゝ)                  | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 14. 私 <sup>け</sup> 今朝 <sup>き</sup> はランニングしよるかった。(ゝ)       | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 15. 楽 <sup>らく</sup> い練習とか意味ないけん。                          | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 16. 今日は一日全然勉強せんかった。(ゝ)                                    | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 17. 調整せんで使いよったら不便だろう。(ゝ)                                  | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |
| 18. あの子は歌じょうずいよね。(ゝ)                                      | [ 使う <sup>○</sup> △ 聞かない <sup>×</sup> ] |

次ページへ続く

注：(ゝ) は文の語尾（文末）の発音が上がらないことを示しています。

選択肢 {○：使う。／ △：使わないが聞いたことがある。／ ×：聞いたこともない。}

- |  |           |
|--|-----------|
| 19. この辺は静 <sup>しず</sup> かかところやね。   | [ ○ △ × ] |
| 20. この文章変 <sup>へん</sup> ないところあったら教えて。  | [ ○ △ × ] |
| 21. あの子昨日寝 <sup>あそ</sup> ぼけとったけん記憶が曖 <sup>あい</sup> 昧 <sup>まい</sup> だろう。(ゝ)                     | [ ○ △ × ] |
| 22. あの子の先生 <sup>せんせい</sup> の教え方は親切 <sup>しんせつ</sup> いよ。   | [ ○ △ × ] |
| 23. 今日は家帰 <sup>か</sup> ってちゃんと勉強 <sup>べんきやう</sup> するかった。(ゝ)                                     | [ ○ △ × ] |
| 24. 今頃明日の準備 <sup>じゆんび</sup> でもしよるだろう。(ゝ)   | [ ○ △ × ] |
| 25. 私先週までダイエットしとるかったんよ。(ゝ)   | [ ○ △ × ] |
| 26. レポート寝 <sup>へん</sup> ぼけながら書いたけん変 <sup>へん</sup> かろうや。(ゝ)                                     | [ ○ △ × ] |
| 27. 昨日はじょうずか演奏 <sup>き</sup> 聴 <sup>き</sup> けたとよ。(ゝ)  | [ ○ △ × ] |
| 28. 丸付 <sup>まるく</sup> けるだけなら楽しいね。  | [ ○ △ × ] |
| 29. あそこの駅員 <sup>えきいん</sup> さんやったらきつと親切 <sup>しんせつ</sup> だろう。(ゝ)                                 | [ ○ △ × ] |
| 30. (クラスの友人 <sup>なん</sup> に対して) 先生 <sup>はなし</sup> さっき何 <sup>なん</sup> の話 <sup>はなし</sup> しとるかった？ | [ ○ △ × ] |
| 31. 今日の先生 <sup>せんせい</sup> の服 <sup>ふく</sup> ちょっと変 <sup>へん</sup> いよね。(ゝ)                         | [ ○ △ × ] |
| 32. 先週から田中君 <sup>たなか</sup> と挨拶 <sup>あいさつ</sup> 運動 <sup>うんどう</sup> しよるだろう？                      | [ ○ △ × ] |
| 33. 来月引 <sup>ひ</sup> つ越 <sup>こ</sup> しするくて、今忙 <sup>いそ</sup> しいっちゃん。                            | [ ○ △ × ] |
| 34. 何も <sup>なん</sup> せんでいいなら楽 <sup>らく</sup> だろう。(ゝ)  | [ ○ △ × ] |
| 35. さっきまで私 <sup>わたし</sup> 何 <sup>なに</sup> しとるかったっけ？  | [ ○ △ × ] |
| 36. 久々 <sup>くく</sup> に会 <sup>あ</sup> えて嬉 <sup>うれ</sup> しか。(ゝ)                                  | [ ○ △ × ] |

次ページへ続く

注：(ゝ) は文の語尾（文末）の発音が上がらないことを示しています。

選択肢 {○：使う。／ △：使わないが聞いたことがある。／ ×：聞いたこともない。}

- |   |                   |
|---|-------------------|
| 37. さすがにテスト前日は勉強するだろう。(ゝ)                         | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 38. 言われてみたらそんな気もせんくない。(ゝ)                         | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 39. 田中君今日の発表すごく楽しみにしとるかったてよ。(ゝ)                   | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 40. 自転車で坂を登るのは大変い。                                | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 41. (クラスの友人に対して「あなたは」) 日曜日 <sup>なん</sup> 何しとるかった？ | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 42. 週に一回も運動するくない。(ゝ)                              | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 43. この文章 <sup>へん</sup> 変いところあったら教えて。              | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 44. 東京行ったら方言 <sup>はなし</sup> 使わんで話するくなるよ。(ゝ)       | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 45. 人の記憶なんて <sup>あいまい</sup> 曖昧い。(ゝ)               | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 46. 雪の中を歩くのは大変だろう。(ゝ)                             | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 47. このくらい気にせんで <sup>よ</sup> 良かよ。(ゝ)               | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 48. 大学に入ってからあんまり電話せんくなった。(ゝ)                      | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 49. やっぱりこの服は <sup>へん</sup> 変なだろう？                 | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 50. 3組の田中君、掃除しよるかった？                              | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 51. さっきまで晴れとったのに今日の天気は <sup>へん</sup> 変なか。(ゝ)      | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 52. 大学入ったらみんなバイトするくない？                            | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 53. 人と <sup>はなし</sup> 話しよるときに居眠りはせんだろう？           | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 54. <sup>あいまい</sup> 曖昧いことばっか言うけん信用されんのよ。          | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |

次ページへ続く

注：(ゝ) は文の語尾（文末）の発音が上がらないことを示しています。

選択肢 {○：使う。／ △：使わないが聞いたことがある。／ ×：聞いたこともない。}

- |   |               |
|---|---------------|
| 55. 高校入ってからちゃんと勉強するくなった。(ゝ)                               | [ 使う △ 聞かない ] |
| 56. ここの区別は割と曖昧 <sup>あいまい</sup> だろう？                       | [ 使う △ 聞かない ] |
| 57. おかあさんの料理はじょうずかとよ。(ゝ)                                  | [ 使う △ 聞かない ] |
| 58. 前の授業のとき課題提出するかった？                                     | [ 使う △ 聞かない ] |
| 59. テレビもないけんあの子ひまだろう。(ゝ)                                  | [ 使う △ 聞かない ] |
| 60. なんか嬉 <sup>うれ</sup> しかことでもあったと？                        | [ 使う △ 聞かない ] |
| 61. 今回の作品はじょうずだろう？  | [ 使う △ 聞かない ] |
| 62. 困 <sup>しん</sup> とつたら親切 <sup>しんせつ</sup> い人が教えてくれたっちゃん。 | [ 使う △ 聞かない ] |
| 63. 田中君この前も自習しよるかったよ。(ゝ)                                  | [ 使う △ 聞かない ] |
| 64. 冬になると寒いけんあんまり換気せんくなるよね。(ゝ)                            | [ 使う △ 聞かない ] |
| 65. 今日は当番やないけんひまだろう？                                      | [ 使う △ 聞かない ] |
| 66. 子供たちが寝 <sup>しず</sup> とつたら静かかね。(ゝ)                     | [ 使う △ 聞かない ] |
| 67. えっ、私貧乏ゆすりしよるかった？                                      | [ 使う △ 聞かない ] |
| 68. 毎日そんな早 <sup>は</sup> よ起きるのは大変だろう？                      | [ 使う △ 聞かない ] |
| 69. お母さんのよりじょうずい卵焼き食べたことない。                               | [ 使う △ 聞かない ] |
| 70. やっぱりこの服 <sup>へん</sup> は変だろう？                          | [ 使う △ 聞かない ] |
| 71. 不便いところに住んどんやね。  | [ 使う △ 聞かない ] |
| 72. この雨の中マラソンはせんだろう。(ゝ)                                   | [ 使う △ 聞かない ] |

次ページへ続く

注：(ゝ) は文の語尾（文末）の発音が上がらないことを示しています。

選択肢 {○：使う。／ △：使わないが聞いたことがある。／ ×：聞いたこともない。}

- |   |                   |
|---|-------------------|
| 73. そんな赤 <sup>あか</sup> か顔してどうしたと？                           | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 74. 昨日私に電話せんかった？  | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 75. ひまい時とか連絡してよ。(ゝ)   | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 76. 誰も立候補せんかったら困るやろ。(ゝ)                                     | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 77. ちゃんと説明したら勘違いせんくない？                                      | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 78. 3組の田中君昨日からずっと気にしとるかろう？                                  | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 79. (隣のクラスの友人に対して「あなたは」)さっき体育で持久走しとるかったね。(ゝ)                | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 80. 寒くなってきて葉っぱももう赤 <sup>あか</sup> か。(ゝ)                      | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 81. 今日はお客さん少なくてずっとひまい。                                      | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 82. うちの犬、寝 <sup>しず</sup> とったら静かかろう？                         | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 83. 田中君が立候補するかったら私はせんよ。                                     | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 84. 一番大変 <sup>なん</sup> い競技は何やろうか。                           | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 85. いっしょにドッジボールするかろう？                                       | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 86. (クラスの友人に対して「あなたは」)昨日商店街で買い物しよるかった？                      | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 87. レポート寝 <sup>ね</sup> ばけながら書いたけん変 <sup>へん</sup> なかるうや。(ゝ)  | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 88. 今日の先生の服ちょっと変 <sup>へん</sup> ないよね。(ゝ)                     | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 89. 部屋に時計がないと不便 <sup>べん</sup> かろう？                          | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |
| 90. (別の部活動に所属する友人に対して「あなたは」)今朝 <sup>けさ</sup> も練習しよるかったね。(ゝ) | [ 使う ○ △ 聞かない × ] |



【付記】

小稿は平成28年度首都大学東京 都市教養学部卒業論文として提出したものを元にしています。  
御指導下さった指導教授の大島資生先生に御礼を申し上げます。また、学術論文として執筆する  
にあたり御指導下さいました浅川哲也先生に御礼を申し上げます。

(とみた・あかね 首都大学東京 都市教養学部学生)